

2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社サイトリ細胞研究所

2022年11月11日

Index

01 グループ概要

02 2023年3月期2Q 決算概要

03 事業トピックス

Appendix

会社概要

会社名	株式会社サイトリ細胞研究所（旧社名 FRACTALE株式会社）
設立	2004年10月1日
資本金	1億円（2022年11月11日現在）
代表取締役	堀江 聡寧
所在地	東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング7階

事業内容

<メディカル事業>

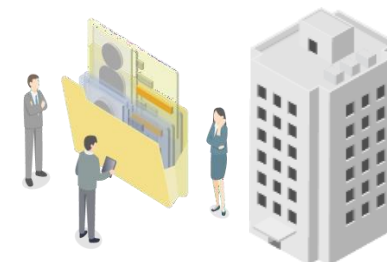
- ・医療機器の製造、輸入及び販売
- ・脂肪組織再生由来（幹）細胞を用いた細胞治療の研究

<リアルアセット事業>

- ・不動産の販売、不動産関連投資
- ・ホテル運営

株主構成（2022年9月30日） （顕在株式数ベース）

・アクア戦略投資事業有限責任組合	47.61%
・Cytori MBO有限責任事業組合	4.19%
・GMOクリック証券株式会社	4.19%
・窪田 芳郎	3.96%
・株式会社SBI証券	3.48%
・堀江 聡寧	2.70%



社員数

63名（連結ベース、2022年4月1日現在）

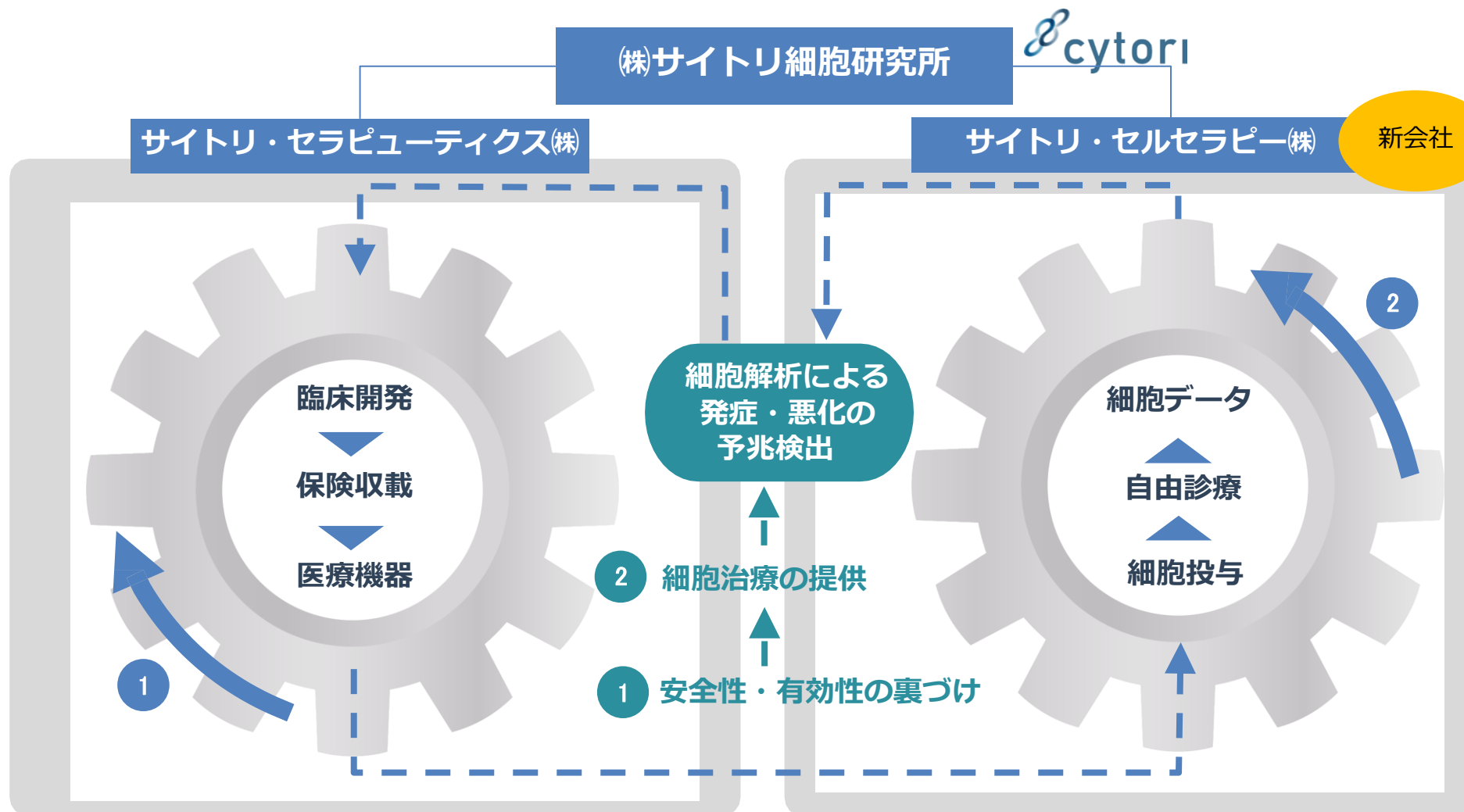
グループ体制について

サイトリグループでは、メディカル、不動産ファイナンス、ホテル運営の3事業を一体経営しております。今般、細胞治療サービスの提供を行うサイトリ・セルセラピー株式会社を立ち上げ、グループのさらなる企業価値向上を目指してまいります。



細胞研究プラットフォームの構築

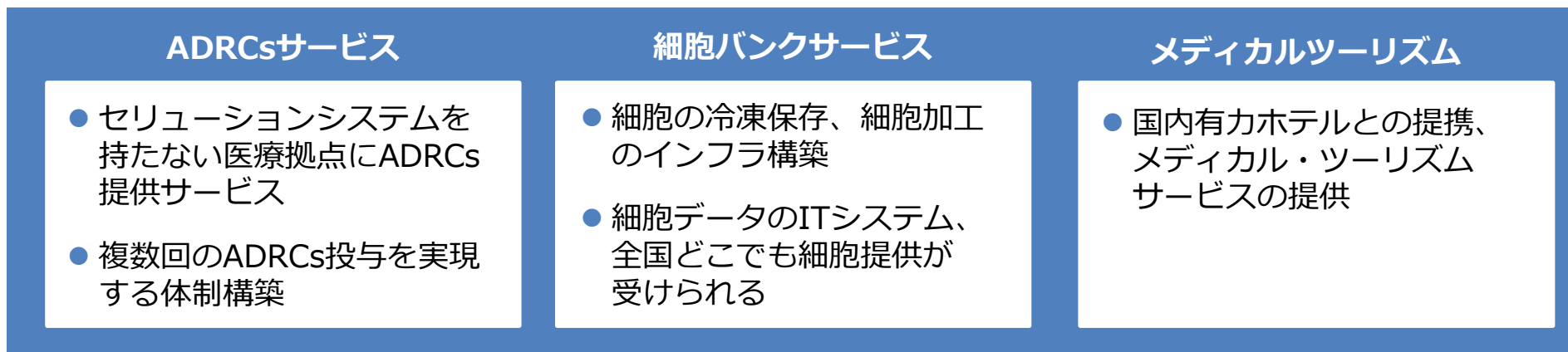
(株)サイトリ細胞研究所では、臨床開発による保険収載を目指すサイトリ・セラピューティクス(株)と、細胞治療サービスに特化したサイトリ・セルセラピー(株)の3社体制で細胞研究を加速させます



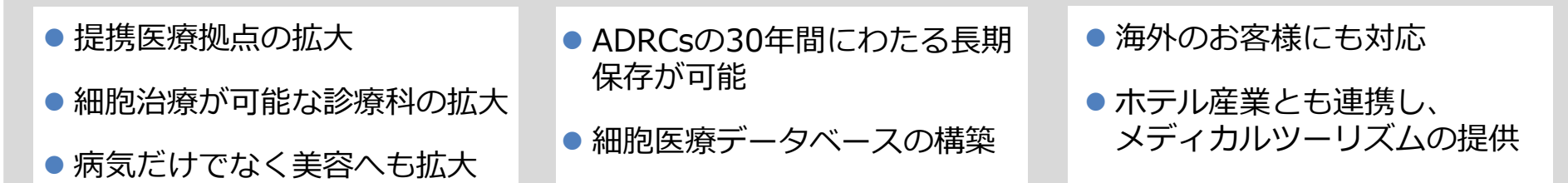
全国で細胞治療サービスを提供

- 全国の病院、クリニック等でサイトリ社のセリューションシステムを持たない拠点にADRCsを提供するサービスを開始、細胞治療のサービスを加速させます
- 外部システム会社と連携の上で、細胞治療データプラットフォームを新たに構築し、細胞治療データの医療現場間での活用を目指します。

サイトリ社の3つのサービス戦略



提供できる効果



Index

01 グループ概要

02 2023年3月期2Q 決算概要

03 事業トピックス

Appendix

2023年3月期2Q 決算概要

売上高は75.4%増加したものの、当期純損失は527百万円拡大

[百万円]

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額
売上高	668	1,172	504
営業利益	△259	△380	△121
経常利益	△237	△437	△200
親会社株主に帰属 する当期純利益	△34	△561	△527

- セルーション遠心分離器およびセルーションセルセラピーキットの販売実績は前年同期をやや下回った。
- ホテル金沢では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、前年同期より回復しており下半期にむけて回復基調にある。
- 不動産ファイナンス事業にて、サテライト名古屋を子会社化したこと及び匿名組合出資持分を売却したこと等により、前年同期に比べて売上高が増加。
- 前年同期は負ののれん発生益96百万円及び投資有価証券売却益85百万円を特別利益として計上したが、当期は特別利益の計上がなく特別損失として関係会社出資金売却損107百万円を計上した。

セグメント情報

[百万円]

		2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額	増減の主な要因
売上高	メディカル事業	100	83	△17	・セルーション遠心分離器およびセルーションセルセラピーキットの販売が前年をやや下回った
	リアルアセット事業	567	1,089	521	・新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けるも、ホテル金沢が回復基調
	ホテル運営	183	416	233	・サテライト名古屋の子会社化および匿名組合出資持分売却等により不動産ファイナンスの売上高が増加
	不動産ファイナンス	384	672	287	
	計	668	1,172	504	
営業利益	メディカル事業	△105	△118	△12	・セルーション遠心分離器およびセルーションセルセラピーキットの販売が前年をやや下回った
	リアルアセット事業	△77	△187	△110	・運営するホテルについては、雇用の維持を図りつつ、経費圧縮の徹底
	ホテル運営	△189	△138	50	・サテライト名古屋の子会社化に伴う販管費の増加等により不動産ファイナンスが営業損失となる
	不動産ファイナンス	111	△49	△160	
	全社又は消去	△75	△74	1	
	計	△259	△380	△121	

2023年3月期 連結業績予想

2022年5月13日に公表した通期連結業績予想数値を据え置き。

[百万円]

	2023年3月期 通期予想	2022年3月期 2Q実績	進捗率
売上高	3,260	1,172	35.9%
営業利益	320	△380	－%
経常利益	140	△437	－%
親会社株主に帰属 する当期純利益	20	△561	－%

<下期計画>

- メディカル事業は、今後構築を目指していくアライアンス先との間で、共同での臨床開発体制を整備し収益構造の改善を図る。また新たに細胞治療のプラットフォームを国内で構築することで、細胞治療サービスの普及による収益拡大を見込む。
- ホテル事業は、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、急回復を図り黒字化へ。

Index

01 グループ概要

02 2023年3月期2Q 決算概要

03 事業トピックス

Appendix

✓ 癒着防止吸収性バリア『Cyt-006』の臨床試験開始

□ 『Cyt-006』の臨床試験開始

連結子会社であるサイトリ・セラピューティクス(株)は、原発性直腸癌における腹腔鏡下手術及び一時的人工肛門造設術を施行する患者を対象に、癒着防止吸収性バリア『Cyt006』の有効性及び安全性を検証する臨床試験を開始しました。

□ 背景

術後癒着は、外科手術における術後合併症であり、外科的に侵襲を受けた組織と周囲組織がくっつき、線維化が引き起こされることによって生じます。その結果、腸閉塞、激しい腹痛、不妊などの癒着合併症を引き起こし、患者さんに長く辛い苦痛を与えるリスクがあります。内視鏡下腹腔内外科手術により、開腹手術に比べて術後癒着の発生率は減少しましたが、ロボット支援手術の適用拡大も進んでいることから、外科手術の対象組織や手術様式も多様化しております。これらのことから、癒着防止吸収性バリア製品により多くの選択肢があることは臨床的に極めて重要と考えられます。

□ 癒着癒着防止吸収性バリア『Cyt-006』について

癒着防止吸収性バリア『Cyt-006』は、欧米及び日本を除くアジア各国で20年以上に渡って使用実績のある既存製品と同一組成のポリ乳酸からできているフィルム状の製品です。腹腔内の手術において、臓器や組織の間に『Cyt-006』を設置することで、その後の癒着が予防できます。さらに、『Cyt-006』の原材料のポリ乳酸は数多くの医用材料として用いられている生体吸収性物質であるため、外科的摘出の処置は必要ありません。なお、『Cyt-006』は、米国食品医薬品局（FDA）にて2021年1月7日に市販前届出510(k)認可を得て、米国内での販売が開始されています。

Index

01 グループ概要

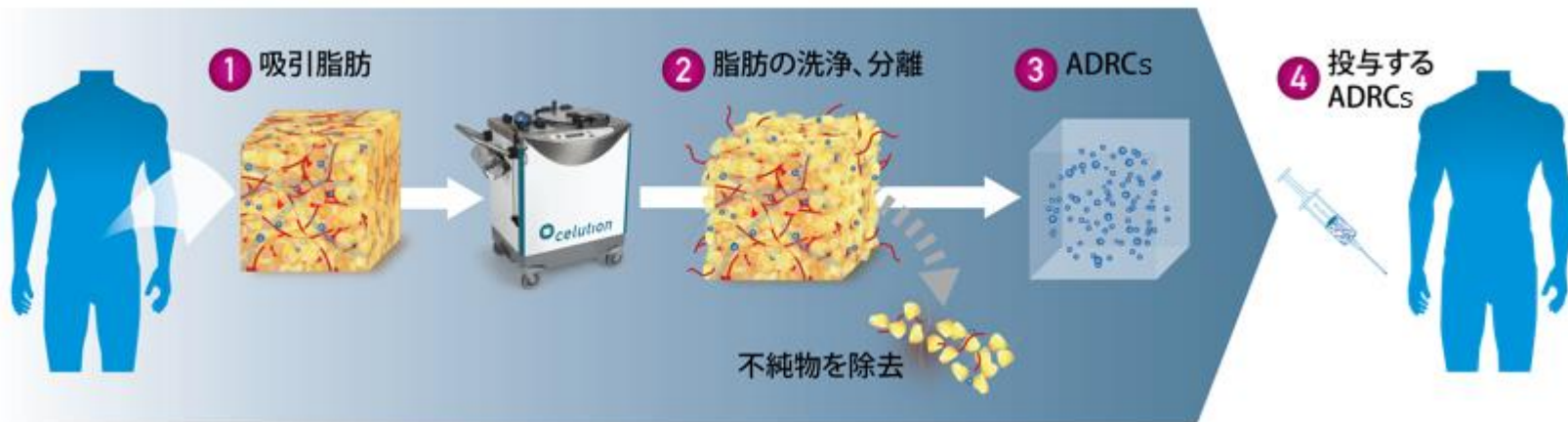
02 2023年3月期2Q 決算概要

03 事業トピックス

Appendix

Appendix ～細胞治療の流れ～

- 自己の皮下脂肪組織から、特許技術のプラットフォームであるセルーションシステムを用いて、脂肪組織由来再生(幹)細胞 ADRCs (Adipose Derived Regenerative Cells) を抽出します。
- 抽出したADRCsを培養することなく、その日のうちに患者様へ投与します。



セルーション 遠心分離器
一般医療機器・クラス I



医療機器製造販売届出番号：
13B1X1015500001

セルーション セルセラピーキット
高度管理医療機器・クラスIII



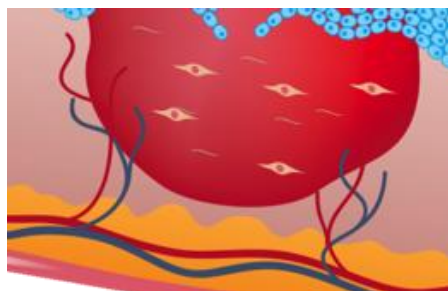
セルーション
ディスプレイ
ブルセット

セレース
(酵素)

医療機器製造販売承認番号：
23000BZX00357000

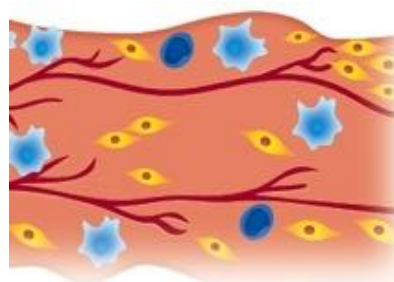
Appendix ～ADRCsの特徴～

- 特許技術のプラットフォームであるセルーションシステムを用いて、脂肪組織由来再生（幹）細胞ADRCsを抽出することが可能です。体外培養を必要とせず、その日のうちに患者に投与します。セルーションシステムは、国内で厚生労働省の認可を受けた医療機器です。
- 本治療は、患者のADRCsを、体内に戻すことで様々な治療効果を期待するものです。ADRCsは、障害部位を探し当てて自発的にその部位に集積するホーミングとよばれる能力を持っていると考えられています。そのためADRCsを経血管的に投与、乃至は患部に直接投与することにより、損傷ないしは機能低下を来した組織にADRCsが集積してその修復や再生を促し症状の改善が期待されます。
- ADRCsの作用は、血管新生、炎症の調整、繊維化の減少／組織修復といった作用があると考えられています。



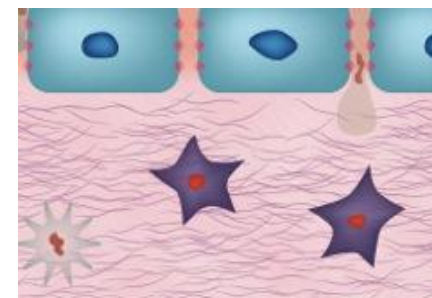
血管新生/血管障害

- 血管新生の促進
- 血管構造の正常化
- 血管収縮能の改善



炎症

- 炎症性因子と抗炎症因子の調整
- 炎症性細胞の機能と抗炎症細胞の調整



繊維化/組織修復

- 線維化の形成を減少
- 線維化組織のリモデリング

本資料の取り扱いについて

- 本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料には、監査法人による監査を受けていない管理数値が含まれています。
- 本資料に含まれている今後の戦略、計画、将来の見通し、並びにその他将来の事象等に関する記載には、本資料の発表時点において合理的に入手可能な情報に基づく当社の仮定、見込み等が含まれます。その為、実際の業績、開発進捗等は、今後の研究開発の成否や将来における当局の対応、事業パートナーの状況等、現時点では不明又は未確定な原因によって、本資料の記載とは異なる結果となる可能性があります。
- 今後、新たな情報や将来の出来事等が発生した場合でも、当社は本資料に含まれる内容の更新、修正を行う義務を負うものではありません。

今後とも更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：当社ホームページIR問い合わせ
<https://cytori.co.jp/contact/>